

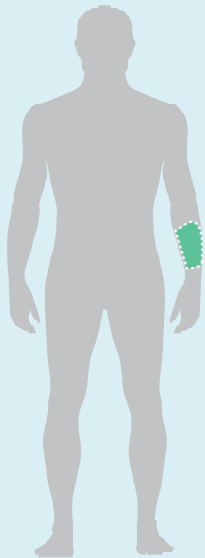
深達性部分層熱傷の治療におけるRECELL[®]システムの使用により採皮面積が有意に減少

CASE STUDY / Booker King, MD / US Army Institute of Surgical Research Burn Center, San Antonio, TX

患者の状態

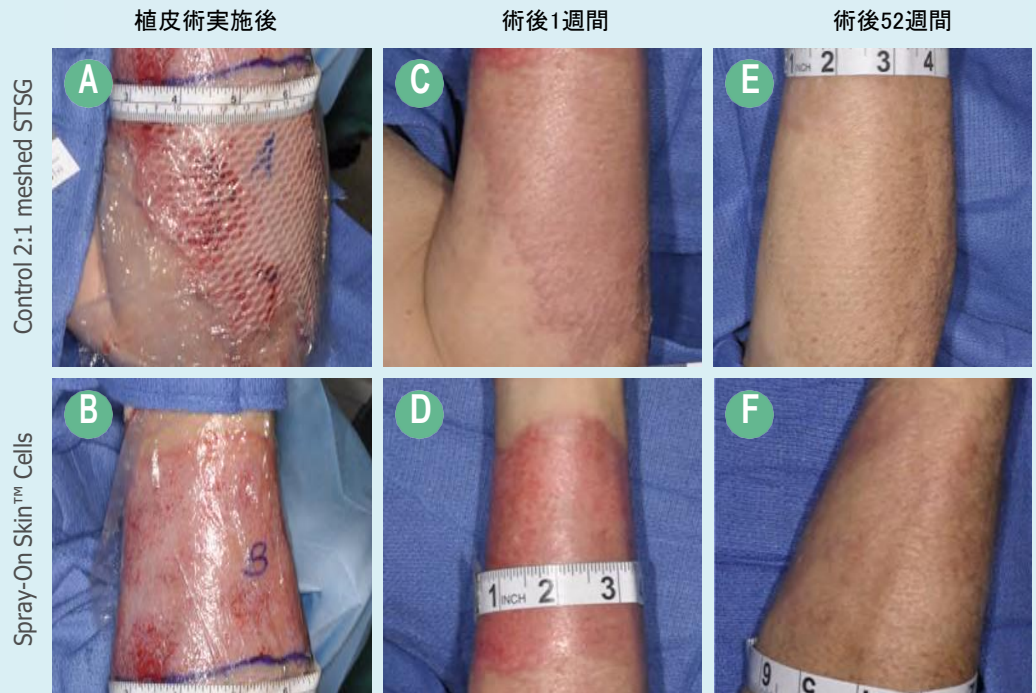
顔面、腹部、両側上肢に炎による深達性部分層熱傷を受傷した62歳男性。
 本症例では2倍網状分層植皮(SNS)と左前腕でRECELLを使用し、比較を行った。

RECELL治療部位



結語

従来の自家植皮術に比べ、深達性部分層熱傷にRECELLを使用すると、採皮面積が96%縮小され、1週間で上皮化が完了、術後52週で皮膚の色も再生することが示された。長時間経過後の皮膚の強度についても妥協点は無い。



治療法

この患者の治療は、前向き無作為化同一患者比較試験の一環で行われた。受傷6日後、熱傷部位を無作為に2つの同等な部位に分け、2:1自家網状植皮或いはRECELLシステムを使用して作成したSpray-On Skin[™] Cellsで治療を行った。どちらの治療部位もTelfa[™] Clear (図A & B)で被覆し、その後滲出液の吸収と表皮再生のための創部保護を目的とし、Xeroform[™]及び厚みのあるしっかりとしたドレッシング材を貼付した。

臨床的アウトカム

熱傷治療でRECELLを使用する事により、2:1自家網状植皮に比べ、採皮面積が96%縮小された。治療後1週間目、RECELL治療部位と2:1自家網状植皮で治療した部位のどちらも治癒した。4週目、比較対照部位(図C)に対し、RECELL治療部位(図D)に紅斑の兆候が現れた。しかし紅斑は本試験期間中に鎮静化した。52週目、2:1網状植皮で治療した部位で、中程度の色のミスマッチがあった(図E)。一方RECELL治療部位は周辺の皮膚と色がマッチしている(図F)。長期間経過後の再生皮膚の脆弱性について、報告は無い。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

